

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 182号

平成29年6月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

新渡戸稲造「人生雑感」より (2)

友会徒の生活 (1)

そこで友会徒というのは、ざっと 20 年ばかり前に、その宗派に関係のある人のこしらえた文字であって、いわば英語の直訳である。なぜ英語の直訳であるかというに、この宗派はイギリスにおいておこった宗派で、17 世紀の中頃に、ジョージ・フォックスという人が感ずるところあって、靴屋で靴を造りながら心に感ずるところあって自分の職業を投げうって、家人に別れ日本で言えば出家して山に入り、あるいは祈祷し、あるいは断食し、聖書 1 冊を持って山に引き込んで、種々研究して、宗教というものは、個人個人の心の働きであると、今更のごとくに感じた。そのようなことをいまさらのごとく感じたというは、17 世紀の初めには、宗教界が乱れていた故であった。けれども宗教は外部の形式にあらで内心の働きであるとい

うことは、千年も二千年も五千年も前からの教えであったに相違ないが、17世紀の頃には、宗教は一の儀式になっていた。近頃日本の神道も仏教も活動しているようであるが、ご維新前は一の儀式であって、葬式の時より外に用をしなかった。しかしお釈迦さんの教えはそのような浅薄なものではない。…宗教というのは坊さんが教えるものでもない。またバイブルでもない。経文でもないと言った。聖書に書いてない信仰すべきものもある。自分の考えにおいて、善い事正しいこと心に恥ずることはないと思ったものは、聖書に書いてあってもなくても関わぬと、こういうことを言った。それがために、ジョージ・フォックスは、非常に迫害を受けた。20世紀の今日、友会とはキリスト教徒でないという人がある。耶蘇教であるならば、耶蘇教はバイブルを貴ばねばならぬ。友会徒はバイブル以上に銘々の心を置くから耶蘇教では無いというて、友会徒をキリスト信者に数えない人が、今日なおあるくらいである。しかし友会徒はバイブルを軽んずる者ではない。けれどもバイブルで判断のつかぬ時はどちらにするか、自分の心に従うか、バイブルの文字に従うか、疑問の起ったときは、心の正しいところに従えと教えた。

友会徒の生活 (2)

これが教理となつて一の宗教ができ、この宗派を名づけてソサイエティー・オブ・フレンズ、すなわち朋友の会合という。…しかし、一名フレンドと言わずしてクエーカーという。クエーカーは悪口であるが、普通一般にクエーカーという方が聞こえている。初め悪口であったけれども、悪口が後で良い名となった。ちょうどメソジストのように、初めてウェスレー兄弟 2 人で宗派を説いた時分、…世人は彼の仲間を評して、彼らは何とかすると方法とか手段とかいう、彼らは方法メソッド——メソッド信者であるという所から、メソジストなる悪口を言ったのである。クエーカーと言うは、震動——ふるえる——戦慄する人、ジョージ・フォックスは、裁判官の前に、彼の確信するところを憚りなく言ってすこしも恐れぬが、ただ神の前には恐れて戦慄する。神の前にぶるぶるふるえると言って、裁判官が悪口を言った。その悪口から起こったのである。…これはイギリスの語であるけれども、ドイツでもロシアでも、クエーカーというと、むしろ人の尊敬する名称となっているのは、そもそも何であるかと尋ねるならば、これはすなわち今日大体を挙げて、お話する理由である。

友会徒の生活 (3)

この悪口がかえって、尊敬の名称となったというは何であるかという、悪い名を持っているものが行いが正しかったのでかえって尊敬された。ここが大切である。…それは、この十字架上に釘づけられたキリストの弟子たちは、その日常の行為、平常の生活が正しかったからである。…彼らの行為は正しかった。クエーカーと言えば、今日アメリカでもイギリスでも、金を貸して証文を足らない。金を借りることがあっても、クエーカーは外の者とは取り扱いが違う。裁判所では聖書の上に 3 本の指を載せて誓いをさせるが、クエーカーに限ってそういうことはさせない。貴様は何宗であるか、クエーカーであると言えば、クエーカーなら間違いないと言って、誓言をさせない。初め、ジョージ・フォックスが神の前に震えているのを嘲笑して呼んだクエーカーなるあだ名は、後には、裁判所でも規則を設けて誓言をさせない人々が呼ばれる名誉の称号となった。クエーカーはそれほどに信用を得、名誉を得た。友会徒はどうしてこの信用、この名誉を得たか。理屈から得たのではない。…まったく各自の生活が正しかったためである。

友会徒の生活 (4)

(レッシングの「ナタンの指輪」の話)

(兄弟) 3人とも同じもの(お父さんの大切な指輪)をはめている。そこで、どれが本当だか、どれが偽物だかわからぬ。俺のが本物で、お前のは偽物だという争いが起こって、裁判所へ訴え出た。すると裁判官が言うには、果たしてお父さんの遺言が真実であるなら、真正の指輪をはめている人は人に可愛がられ、敬愛されるに相違ない。必ずそうあるべきである。ゆえに論より証拠、人に可愛がられ、尊敬されている人のはめているのが、本当の指輪で、人に憎まれる人のはめているのは偽物だと定まると。それで3人とも家に帰って、われこそは世の中の人から尊敬され可愛がられて、真正の指輪の所有者たらんとし、各自敬愛を受くるに値するように努めたという話がある。キリスト教でも、また如何なる教えについても同じく、あるいはいずれの宗派についても同様で、その奉じている教えが本当であるか嘘であるか、何ほどしゃべっても、議論してもわからぬ。もちろん裁判所へ行ってもわからぬ。いずれの宗派であっても、一番正しい生活をしているものが尊敬を受ける。論より証拠、世の中から尊敬を受ける者が、真正の指輪をはめているのである。

友会徒の生活 (5)

クエーカーは正しいことをするに躊躇しておらぬ。正しいことに強い。千万人といえども我れ往かんという強いところがある。誰が何と言ったからこうするというのでない。自分の心に納得しなければやらない。また自分の心になすべしということはやる。クエーカーは自分の心から割り出して行動するから、強い奴ができる。またその強い生活を押し通していく。だから一寸見ると無作法らしいが、無作法とは違う。悪く言えば偏屈爺さんが沢山ある。けれども不正なことはしない。こういうわけであるからして、友会徒の生活においては、まず黙祷ということを重ねるのである。すなわち祈祷するにも、大きな声を出してするよりも、黙とうを重ねる。クエーカーは日に2度も3度も黙とうをやっている。何をするにも、一寸自分の心で神様に伺ってから、良いと思えばやる。

友会徒の生活 (6)

またこの態度は他の人に対する親切同情についても同様である。座っていても、歩いていても、凶らずもある人例えば一友人の事が心に浮かぶと、丁度日本で言う、虫が知らせるとか、鳥鳴きが悪いから何か不詳なことがあるはしまいかと心配するとか言うように、こう気にかかるのはただ事ではあるまいと、その友人を訪ねてみる。風邪でも引いていると、神の知らせであったと思う。何か凶らずも心に浮かんで、それが除かぬと、一室に閉じこもって考え込んで日を送ることがある。また友と交わるに信義を重んじ、互いに訪問してじっとして別れる事もよくある。また一日話して面白く交わり、黙禱して別れることもあり、黙っていてから誠に良かったと、再会を約して別れることもある。一寸普通と違っているから、おかしなことをすると思われる。けれどもそれをどこから割り出すかというに、神が直接に心を動かすという所から割り出してくる。話をするにも、篤と心を静めてするのである。

友会徒の生活 (7)

まだこのほかにも生活上異なった所はあるが、ことごとく申し述べる事はできない。要点だけ申し上げた。すなわち第 1 には、自分の心を標準として何でもすること。それからまた直言をすること。人と交わるに信義を重んじ、相互に正義を守ること。しばらく黙待して別れる事もお話した。それから衣服のこと、室内の装飾の事について言った。その要点はシンプル・ライフ、すなわち単純簡易に世を渡るということである。

この単純簡易に世渡りをする結果として、貧乏人がなくなる。クエーカーには貧乏人はない。これはなぜかというに、奢侈をしないからである。

友会徒の生活 (8)

それからもう一つは、清潔という事である、これが非常に高調せられている。心の清潔ばかりではない。物の清潔である。諸君御承知の通り、フランクリンの自叙伝にも書いてある。フィラデルフィアにあるクエーカーの町は、実に非常に清潔を守っている。これは衣服にしても簡単なものを着ているからたやすくできるのである。ひっきょう生活が簡易であるから清潔法が行き届くことになる。家の中でも沢山の装飾が施してあると、十分に掃除が行き届かぬ、飾りが無ければ思うように掃除ができるわけである。

友会徒の生活 (9)

こういうことを列挙すれば、列挙すべきことがまだあるし、また弱点もあるが、クエーカーについて、最も感服することを述べたい。してそれを日本に入れたい。すなわち正しいと思う所をやる心、正しいことに強いところ、正義のためには何も恐れないところは日本の教育に欠けている点である。意地の悪いようなところ、頑固な所、狭いところがあるか知らぬが、とにかく自ら正義とするところは、その通りやって、良い加減いこっちにもあっちにもというようなあいまいなことはしない。一言につづめて言えば、強(き)つい単純な生活である。学問でも優美という方でなく、しっかりした教育である。人は強いところが無ければならぬ。これまではよいがこれより先は、一步も出ぬとの決心がいる。…これまでは良いが、ここまですかいかぬという確固としたところが必要である。われわれはこの心を養いたい。この強い心の中に最も神聖なる力がある。神がわが心に何を命じ賜うかと考え、それをどこまでもやる。ただ強いというて、むやみに前後を考えずにするのは、匹夫の勇に異ならぬ。我々はキリストの如き強さを学ばなければならぬ。ここに注意して生活したいと思います。